

令和7年度横浜市トライアル助成金 交付対象事業(9事業)が決定しました

「横浜市トライアル助成金」は、バイオテクノロジーを用いたGX・脱炭素や健康・医療分野において新製品や新技術の事業化を目指す研究開発やアイデア等を具体化する試作品の開発などを支援する助成金です。

このたび、市内スタートアップ・中小企業、大学・研究機関等が取り組む9事業を交付対象事業として決定しました。今後、市内企業などとのマッチングや販路開拓といった支援を積極的に進め、オープンイノベーションの実現につなげます。

なお、本事業は、(公財)木原記念横浜生命科学振興財団が、横浜市中小企業・スタートアップ等支援事業補助金を受けて運営する事業です。

【交付対象事業】

■中小企業が取り組む事業(3事業・申請者五十音順)

1	事業名	がん免疫療法医薬開発のために必要ながん幹細胞オルガノイドの培養容器		
	事業内容	個別化がん免疫療法の普及を目指し、創薬に不可欠ながん細胞オルガノイド培養の革新技术を創出するため、自動培地交換容器の開発と培養技術の改良を行う。		
	申請者	オプティセル株式会社(中区)	共同研究先	神奈川県立がんセンター
2	事業名	ホンモロコ稚魚の周年生産技術の開発		
	事業内容	植物工場の有機栽培化、未利用資源や排エネルギーの活用を実現する閉鎖型アクアポニックス※1の普及を目指し、淡水高級魚であるホンモロコの稚魚を季節関係なく年間を通して生産する技術の検討を行う。		
	申請者	株式会社アグリ王(港北区)	共同研究先	—
3	事業名	効率的な抗体製品開発のためのエピトープ解析法の開発		
	事業内容	抗体医薬や臨床検査薬の開発を促進するため、抗体が結合する場所(エピトープ)を迅速かつ正確に決める工夫の検証実験を行う。		
	申請者	株式会社メディカル・プロテオスコープ(金沢区)	共同研究先	—

※1 閉鎖型アクアポニックス

植物の水耕栽培装置と、魚の養殖装置を組み合わせた循環型農業のシステム。養殖できる魚は原則として淡水魚に限定されるため、日本国内では高い卸価格とはならないことが多く、収益性が落ちてしまうことが課題とされている。

裏面あり



GREEN×EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



■大学や研究機関等が取り組む事業（6事業・申請者五十音順）

1	事業名	希少がんに適応可能な革新的 in vitro 薬剤感受性プロファイリング検査キットの開発		
	事業内容	希少がんに対する高精度個別化医療※2の実現に向け、体外（in vitro）で薬剤感受性（薬に対する反応の良さ、薬が効くかどうか）を測定する検査システムを開発し、市販に向けたキット化と性能評価を行う。		
	申請者	神奈川県立こども医療センター 血液・腫瘍科 医務監（臨床研究所長）後藤 裕明氏	共同研究先	新田ゼラチン株式会社
2	事業名	正浸透膜※3により濃縮した下水を利用した光合成細菌の培養と水素生産		
	事業内容	「下水処理場をエネルギー処理する場所から、エネルギーを生産する場所にする」ため、正浸透膜で濃縮した下水を用いて光合成細菌による水素生産と肥料化の実証実験を行う。		
	申請者	神奈川大学 化学生命学部 生命機能学科 教授 井上 和仁氏	共同研究先	京都大学大学院地球環境学堂
3	事業名	機械的微小振動を用いた細胞老化抑制のためのハンディデバイスの開発と皮膚癌リスク低減医療への展開		
	事業内容	微小振動を与えると活性化すると考えられるミトコンドリアの性質を利用して皮膚組織の細胞老化を抑制する機器を開発するため、三次元培養皮膚モデル※4を用いて効果検証を行う。		
	申請者	慶應義塾大学 理工学部 教授 宮田 昌悟氏	共同研究先	—
4	事業名	大脳皮質の神経細胞活動から上肢運動 BMI を構築するための核心技術開発		
	事業内容	自らの意思で上肢を動かすことができない患者さんの機能を回復する、ブレインマシンインターフェース（BMI：脳と機械を直接接続し、思考や意図に基づく情報の伝達や操作を可能にする技術）の医療機器製品化に向けた革新技術を開発する。		
	申請者	国立大学法人東京科学大学 生命理工学院 准教授 宮下 英三氏	共同研究先	—
5	事業名	三位一体の体外循環式心肺蘇生（ECPR）トレーニング法の開発と病院外 ECPR の実施		
	事業内容	救命率向上のため、早期搬送から病院外での蘇生への転換を目指し、ECPR※5シミュレーターを開発。市民・消防・医療の三位一体で行うトレーニング法を確立する。		
	申請者	横浜市立大学附属市民総合医療センター 高度救命救急センター 講師 谷口 隼人氏	共同研究先	—
6	事業名	間葉系幹細胞を用いた膝半月板の革新的な治療方法の開発		
	事業内容	治癒が難しい半月板損傷に対する革新的な新規再生医療技術の確立を目指し、半月板様組織を三次元的に誘導する（半月板の様な立体的な組織をつくる）技術を開発する。		
	申請者	横浜市立大学附属市民総合医療センター整形外科 助教 井上 雄介氏	共同研究先	—

※2 高精度個別化医療

患者さんの体質や病気の原因（遺伝子や環境など）を詳細に調べ、その人に最も適した治療法を個別的に選択する医療。

※3 正浸透膜

濃度の低い溶液と高い溶液を半透膜（水などの一部の成分は通し、他の成分は通さない膜）で隔てると、低濃度側から高濃度側に水分子が自発的に移動する現象を利用した膜。



GREEN×EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



※4 三次元培養皮膚モデル

ヒト皮膚の構造（表皮、真皮、皮下組織の3層構造）と似た構造をもつ人工のモデル。ヒト皮膚の代わりに、化粧品や製剤などの安全性や有用性の評価試験に広く用いられている。

※5 E C P R

心臓が動かなくなった時に、人工心肺装置（ECMO・エクモ）を使って、体外で血液を循環させ、酸素を供給することで、一時的に心臓と肺の働きを代行する治療法。

令和7年度 横浜市トライアル助成金の概要

《対象者》 横浜市内に立地する中小企業、大学、研究機関、病院等

《対象事業》 バイオ技術を用いたGX・脱炭素、健康・医療分野の基礎研究成果や臨床ニーズ等の実用化につながる取組のうち、次のいずれかの事業

- ・研究成果やアイデア等を具体化する部品・製品・ソフトウェアの開発や試作品の開発
- ・研究アイデアに基づく予備試験又は仮説検証

※必要となるデータ等の取得およびその検証までが助成対象

※対象事業は申請者によって異なるため、詳細は募集要領でご確認ください。

《助成限度額》

市内スタートアップ・中小企業	1申請あたり 200万円
大学、研究機関、病院	1申請あたり 100万円

《助成率》 対象経費の10/10

《事業実施（助成対象）期間》 交付決定日から令和8年2月28日（土）まで

【参考】

※令和7年度横浜市トライアル助成金の申請募集に関する詳細は、募集時の記者発表資料（令和7年3月28日発表）をご覧ください。

URL：<https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/koho-kocho/press/keizai/2024/trial2025.html>



※ 本件は、横浜経済記者クラブにも配付しております。

お問合せ先

(オープンイノベーションに関すること) 横浜市経済局イノベーション推進課長 中山 佳代子 TEL：045-671-2574
(助成事業に関すること) 公益財団法人木原記念横浜生命科学振興財団事務局長 宮田 広 道 TEL：045-502-4810



GREEN×EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷

